



ONE WORLD Smiles だより



連載 改めて考えたい 小学校英語で大切にしたいこと 第2回

ことばと心を育てる外国語教育を ― ②

✓ 互いの表現を受け止め合う言語活動を

相手のことを思い、気持ちを込め、ことばを大切にしながら表現する「ことばの授業」とはどんなものか、考えてみましょう。

授業の言語活動において、自分の本当の思いや考えを表現し、受け止められる体験ができているでしょうか。それは、子どもたちの自尊感情を高め、また、他者を尊重する姿勢を育むことにもつながります。さらに、相手に伝わるように、話し方やスピード、強弱、表情、声の調子など、話し方に工夫をしながら関わり合い、表現する楽しさを感じられる授業になっているでしょうか。それができていれば、お互いを受け止め合う、グッド・コミュニケーターやグッド・リスナーが育つはずです。このような体験を通して、ことばの大切さやおもしろさ、言語や文化の違いや共通点に気づき、表現する楽しさを体験することこそが、多様な言語や文化を学ぶことへの動機づけとなるのです。

逆に、かつてのように、不必要なほど大声で発話したり、伝えるための工夫や思いもなく、覚えたことを気持ちも込めずに速く言ったりするだけの授業になっていないでしょうか。日頃の授業をもう一度見直してみしましょう。

✓ 思考・判断・表現の能力の育成のために

生きて働く「知識・技能」とは、実際のコミュニケーションにおいて活用できるものでなければならず、ペーパーテストだけで測れるものではありません。そして、「思考・判断・表現」の能力が育っているならば、「知識・技能」も習得されていると言えるはずです。

コミュニケーションにおける目的・場面・状況を考え（**思考し**）、何をどのように表現するのかを決め（**判断し**）、工夫をして**表現する**体験を多くもたせることが大切です。

豊かなコミュニケーション活動を体験させるためには、児童たちが聴きたいこと・伝えたいことは何か、しっかり考える必要があります。教科書の活動をこなすだけでなく、目の前の児童にとって、どんな目的を設定すればより意欲的に取り組めるか考えてみましょう。

例えば、5年生 Lesson 6「行ってみたい都道府県を伝えよう」の単元では、「ALTの〇〇先生が喜んでくれる旅行先を考えよう」「修学旅行先を校長先生にプレゼンしよう」などを単元の目的として取り組んでいる学校があります。

必然性をもたせ子どもの「本当の思い」を引き出す授業の積み重ねがあれば、結果として、子どもたちに英語の基礎的な能力が身についていくはずです。



文教大学教授
かな もり つよし
金森 強
ONE WORLD Smiles
代表著者

✓ 授業と家庭学習をつなぎ、学びを提供する

外国語学習にあたっては、その言語にふれる時間を増やすことが重要です。タブレットを持ち帰り、使用できるようになってきた環境を生かして、授業と家庭学習をつなぐ工夫に取り組みしましょう。

各自のペースで音声を確認したり、動画を見たり、録音・録画をして確認したりすることは、児童の「主体的に学習に取り組む態度」の育成を促すことにもつながります。一人ひとりの児童に応じた学びを提供できるよう努めていきたいものです。

✓ 人と人をつなぐ大切なことばとしての授業を

今後、デジタル教材の活用はさらに進むでしょう。しかし、ことばやコミュニケーションを大切にする姿勢は、人と直接関わることの大切さや楽しさに気づいてこそ育つものです。多様な人と関わり合い、協働しながら社会をつくっていくのが人間であり、ことばを高尚に用いることができるのも人間だけです。

人と人をつなぐ大切な役割をもつことばの授業として、英語の授業を見直してみしましょう。教室で友達や先生と、ことばを使って感じたり想像したりする力、感情や想像をことばにする力、そして、ことばを通じて伝え合う力を育んでいきたいものです。



一人一台端末を活用した 児童の主体性を伸ばす授業づくり



三鷹中央学園三鷹市立第七小学校 主任教諭 今西 佑

自立した学習者を育てたい

予測困難な時代で、児童の生きる力の育成がさげばれているなか、私たちは学習指導を通して児童にどんな力をつけさせていく必要があるのでしょうか。

学習指導要領で求められている3つの資質・能力の育成には「生きて働く知識・技能の習得」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」とありますが、私は「自立した学習者」を育てていくことが、全教科に共通してとても大切だと感じています。自分で課題を見つけ、自ら学んでいく児童の育成です。

ここでは、高学年において、一人一台端末を活用しながら、主体的に学ぶ児童の育成のために行っている学習活動をいくつかご紹介します。

1. 帯時間5分のアルファベット・タイム

私たちの学校では、帯活動として授業の開始5分間程度を使い、「アルファベット・タイム」に取り組んでいます。高学年では、聞き取ったアルファベットをデジタル・ワークシートの4線の上に指で書く活動を行います。自信のない児童も写し書きやなぞり書きができるように、お手本を入れるなど、ワークシートを工夫して作成しています。

一方、聞き取ったアルファベットを4線の上にすぐ書ける児童は、何度も単語を書いたり、教科書の絵辞書的なページを見ながら好きな単語を書いたり、自分に合った学びができるようにしています。中学校進学までにアルファベットの読み書きを確実に定着させるために、毎回の授業での積み重ねを、自分のペースで取り組めるようにしています。



教科書を活用し、自分が書きたい単語を選んで手書き入力する児童。

2. 端末上でスピーチを改善、再構築

6年生の「話すこと（発表）」では、自分のスピーチをより良くしていくために一人一台端末を活用しています。伝える相手のことを考えて内容をつけ加えたり、話す内容や順番を整理したりしながらスピーチを再構築しています。児童の作成した内容を改善前と改善後で比較することも画面上で簡単にできます。このように、深い学びに導くためにも、一人一台端末の使用はとても有効です。

指導の際の留意点として、端末上のスピーチメモはあくまでもメモであって、暗記することが目的ではないことを伝えます。また、ただメモを読むスピーチにならないよう、相手に伝える時は端末を机の中にし、まってからスピーチを行うように指導しています。



端末上でスピーチを構成するのに使えるよう、教員が作成した画面（作成にはグーグル合同会社のJamboard™を使用）。

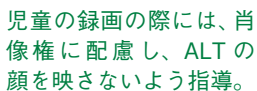
3. お互いの良い点を共有し、協働的に学ぶ

自分のスピーチを録画して見ることは、メタ認知につながり、自己調整に重要な役割を果たします。友達の良いスピーチはクラス全体で共有し、どんなところをまねしたいか一緒に考えます。自分のスピーチをただ録画して終わるのではなく、伝える相手に合わせて、何をどのように伝えたらよいかをクラス全体で考え、協働的に学んでいけるように促します。

このように、メタ認知と協働的な学びを通して、自分の言えることや言いたいことを少しずつ増やしていけるようにしています。

パフォーマンステストでは、自分の話している姿を各自が端末に録画し、データを教師に送って提出しま

なお、保存データ容量には限界があるため、指導者の端末で全児童のスピーチを録画することはしません。スピーチは各自の端末に録画させ、学習管理アプリ*で提出させます。パフォーマンスを確認したい児童の分だけを抽出して確認でき、たいへん便利です。

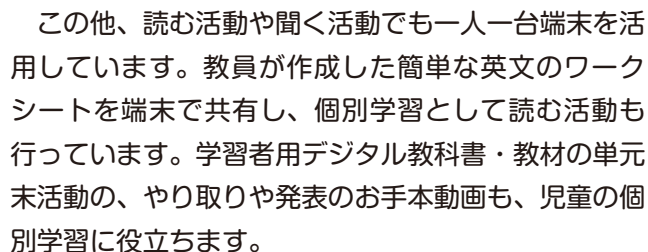


 4. いつでも見返して、振り返りを次につなげる

振り返りを書かせる際には、視点を与えるようにします。その日の授業でできるようになったことや工夫したこと、友達の表現でまねしたいことなどを記入し、次の時間のめあても必ず記入させます。授業はその日



同じ中学に進学する隣の小学校と、コロナ禍もオンラインを通じて交流を行っています。5年生の、あこがれの人について発表する単元(『ONE WORLD Smiles』では Lesson 9 This is my dream friend.)では、最終スピーチに向けて He is She is の言い方を定着させるために、第三小学校の児童たちと、友達について紹介し合いました。児童の「伝えたい思い」を大切に、充実した取り組みとなりました。



一人一台端末の活用を通じて、自分の動画を振り返りながら、スピーチをより良くしようと粘り強く取り組む児童、自ら課題を決めてコツコツ取り組む児童が増えてきたことをとてもうれしく感じています。

以前は私自身も ICT の活用に苦手意識がありましたが、使わなくてはできるようにはなりません。ICT の活用自体が目的にならないように、言語活動を大切にしながら、少しずつ挑戦してきました。指導者自身がまず粘り強く、時代観を捉えながら、児童のために授業改善をしていく姿勢が大切だと思います。

ICTをうまく活用し、周りの人とコミュニケーションを取りながら問題解決に向かっていき、予測困難な時代でも新たな可能性を見出しながら、挑戦し、成長し続けられる児童を、外国語科を通じて育てていきたいと考えています。

そのためには、娯楽的に楽しいだけの授業や、呪文のように丸暗記させる授業ではなく、「自分のことを伝える」「相手のことを知る」ことの楽しさにあふれる授業にする必要があります。文教大学の金森強先生にご指導いただいた、「英語を教えるのではなく、英語で育てる」授業を、これからも目指していきたいと思っています。

Smiles' Park

全国の先生方のひと工夫を紹介します！



思い出の写真を使って発表しよう！(6年 Lesson 7 My Best Memory 小学校の思い出)



kishi_sumiko *



いよいよ卒業が近づいてきた1月。小学校生活の思い出を振り返り、友達と共有するために、一番思い出に残っている学校行事を発表する活動を行いました。第1時では6年間の思い出をまとめた動画を視聴しました。「なつかしい!」「こんなこともあったなあ」と振り返る子どもたち。掲示物にも子どもの写真や作品を使用し、英語と自分の経験を自然に結びつけられるようにしました。

単元末の発表では自分の思いを伝えたり、友達の発表を聞いたりすることを通して、改めて卒業を実感するとともに、友達と最後のひとときを楽しく過ごすことができました。

提供：岸 清子先生

(日野市立第六小学校教諭)

発表 # 小学校の思い出 # 卒業に向けて



Information

◆『ONE WORLD Smiles だより』vol.1 を
ウェブサイトに掲載しました

Vol.1 ではウェブサイトのみのコンテンツとして、連載「すぐに使える活動集」に関連した「Go Fish ゲームの楽しみ方」を公開しています。ご活用ください。



◆文科省 Channel で授業の様子を見てみよう

文部科学省のYouTube™ チャンネルでは、「外国語教育はこう変わる!」をテーマに動画を公開中。「言語活動を通じた指導(授業編)1」では、『ONE WORLD Smiles 5』Lesson 7 を活用した、大分県佐伯市立上堅田小学校の授業実践が掲載されています。「解説編」とあわせて校内研修などで視聴するのがお勧めです。



◆編集後記 ~ Editorial Note ~ Happy Holidays!

12月には、キリスト教のクリスマスだけでなく、ユダヤ教の「ハヌカ(Hanukkah)」など、他の宗教でもお祝いの行事があります。多様な信仰を持つ人々や無宗教の人にも配慮し、年末のお休み前に、だれに対しても使えるフレーズがHappy Holidays! です。言われたら Same to you! と返すとよいでしょう。冬休みの前にぜひ教室でも使ってみてくださいね。Happy Holidays to you all!



〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFTビル 西館
TEL:03-5579-6278 (代表)
<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp>

こちらから
弊社小学校英語サイトに
アクセスできます。



本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」のっとり、配布を許可されているものです。